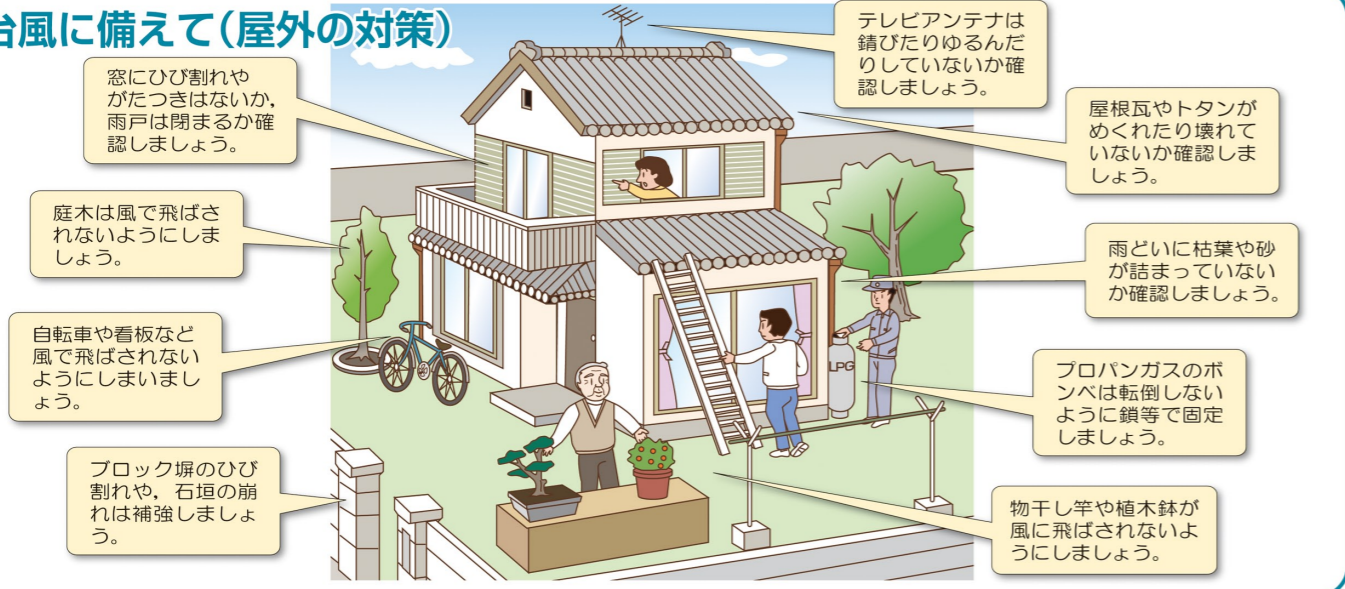


台風に備えて(屋外の対策)



こんな土地は要注意

- ◆海岸**
高潮の要注意地帯。満潮と台風が重なると高潮が猛威をふるうおそれがあります。
- ◆河川敷**
河川の流域や、むかし河川敷だった場所は、豪雨によって浸水する危険性があります。
- ◆急傾斜地**
傾斜30度以上、高さ5m以上の急傾斜地は、雨でけがれ崩れを起こす可能性があります。樹木の少ない山間部は土石流の注意も必要です。
- ◆造成地**
丘陵を切り崩してつくられた土地のほか、谷や斜面に土を盛った造成地は、地質や地形が不安定です。豪雨で地盤がゆるむと、壊れる危険があります。

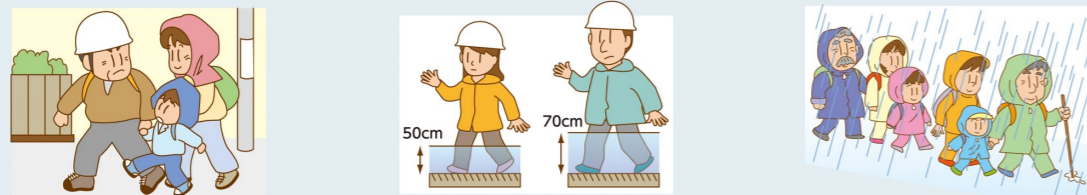
土砂災害は前兆に注意

土砂災害は発生すると大きな被害を生じます。長雨や大雨のときに次のような現象を確認したら、防災機関に通報して早めに避難するようにしましょう。

- ◆がけ崩れ**
地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、地震や大雨の影響により斜面が突然崩れ落ちる現象です。崩れた土砂は、斜面の高さの2倍も離れた距離まで届くことがあります。突然起き、かつ崩れるスピードが速いので、危険を感じたらすばやく避難することが大切です。
- ◆土石流**
山腹や川底の石や土砂が、長雨や集中豪雨などの大量の水と一緒に津波のように襲ってくる現象です。速さは時速 20～40kmと自動車並みです。すさまじい勢いであつという間に辺りの樹木や家、畑・工作物をつぶして押し流してしまいます。
- ◆地すべり**
山地の斜面をつくる岩石や土壌が、斜面下方へ移動する現象です。大雨の時や融雪期に発生しやすく、斜面が一気に移動します。一度に広範囲で発生するため、住宅・道路・鉄道などに大きな被害を及ぼします。

避難の心得

風水害からの避難は、早め早めに対応することが大切です。結果的に浸水などがなく、避難が「空振り」に終わったとしても、命を守るためには「とにかく早めの避難」を心がけてください。ただし、外出が危険なときは、家の中で少しでも安全な所へ避難して下さい。



- ◆動きやすく、安全な服装で**
ヘルメットや防災ずきんで頭を保護。靴はひもでしめられる運動靴を履く。ただし・長靴は厳禁。
- ◆深さに注意**
歩行可能な水深は一般的に男性で70cm、女性で50cm。水の流れば速ければ、もっと浅くても要注意。
- ◆足元に注意**
水面下に側溝などの危険な場所があるので、長い棒をつえ代わりにして確認しながら歩く。

Flood-Hazard Map

洪水・内水ハザードマップ

(詳細は鎌倉市ホームページで公開中)

洪水・内水

水害について知ろう!

洪水・内水ハザードマップとは?

この地図は、鎌倉市内を流れる3つの河川(柏尾川・滑川・神戸川)がはん濫した場合に浸水する区域(洪水はん濫想定区域)と、市内の排水能力を超える大雨によって浸水が発生する区域(内水はん濫想定区域)を示しています。

洪水はん濫想定区域は、神奈川県が公表した「柏尾川洪水想定区域図(平成18年8月)」、「滑川洪水想定区域図(平成21年7月)」、「神戸川洪水想定区域図」をもとに作成し、内水はん濫想定区域は、鎌倉市が市内の排水環境を考慮し、平成16年10月9日の降雨を想定して計算した結果をもとに作成しています。

■ 洪水はん濫基準	柏尾川	流域平均24時間雨量 292mm (100年に1回程度の大雨)
	滑川	1時間最大雨量 74mm (30年に1回程度の大雨)
	神戸川	1時間最大雨量 78.5mm (平成16年10月9日の降雨と同規模)

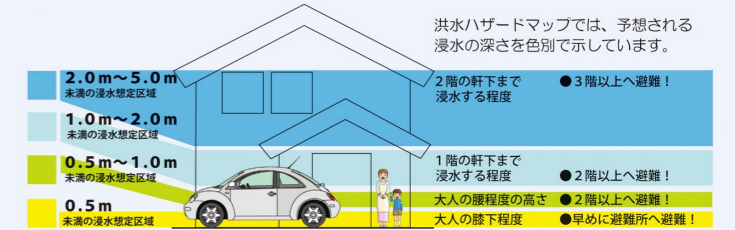
ハザードマップで示される浸水想定区域および浸水の程度は、あくまでも想定です。浸水の程度や範囲は雨の降り方、隣接する河川の状態、高潮等により変化するため、大雨の際、常にこのハザードマップのような浸水が起きるわけではありません。

想定よりも広い範囲への浸水や深い浸水、浸水想定区域に指定されていない区域への浸水が発生する場合がありますので、ご注意ください。

洪水はん濫・内水はん濫が発生するしくみ

- 河川の水によるはん濫(洪水はん濫)**
増水した河川の水が堤防の高さを越えて街中にあふれ出します。
堤防に水が過度に浸み込んだり、河川の流れにより侵食されて(けずられる)決壊し水があふれ出します。
- 河川に排水できない水によるはん濫(内水はん濫)**
街中の下水道の雨水排水能力を上回る降雨により側溝等から水があふれ出します。
本川の排水が間に合わず、支川に逆流した水により、街中へとあふれ出します。

浸水の深さについて



- ◆浸水の範囲に関する注意点**
①浸水想定区域は、実際の洪水による浸水範囲と異なる可能性があります。
②想定以上の洪水が発生した場合、このマップで浸水していない箇所でも浸水する可能性があります。
③中小河川のはん濫は考慮していないため、このマップで浸水していない箇所でも浸水する可能性があります。

水位情報と避難行動の関係図

水位名称	情報の種類	柏尾川 (洪水予報河川)	滑川 (水位情報周知河川)
はん濫危険水位	はん濫危険情報	7.20m	2.60m
避難判断水位	はん濫警戒情報	6.20m	2.30m
はん濫注意水位	はん濫注意情報	3.60m	2.00m
水防団待機水位		2.60m	1.60m
ふだんの水位			

警報・注意報発表基準

横浜地方気象台より、以下の基準(それぞれ表中のいずれかの基準を超えたとき)で警報・注意報(大雨・洪水)が発表されます。鎌倉市は『神奈川県東部三浦半島』地域に分類されます。

	警報	注意報
大雨	■雨量基準 1時間雨量: 45mm以上 ■土壌雨量指数基準 100以上	■雨量基準 1時間雨量: 25mm以上 3時間雨量: なし ■土壌雨量指数基準 60以上
洪水	■雨量基準 1時間雨量: 45mm以上 ■流域雨量指数基準 柏尾川流域: 18 ■複合基準 1時間雨量: 30mm以上かつ柏尾川流域: 14	■雨量基準 1時間雨量: 30mm以上 3時間雨量: 50mm以上 ■流域雨量指数基準 柏尾川流域: 13

*土壌雨量指数とは…降った雨が土壌中にどれだけ貯まっているかを見積もった土砂災害発生の危険性を示した数値
*流域雨量指数とは…流域で降った雨の量や流下する時間などを計算した洪水発生の危険性を示した数値

浸水被害への対策

- 排水を控える**
大雨時には水は控えましょう。一軒一軒の家の排水が集まれば、相当な水量になります。
- 家庭での簡易水防工法例**
小規模水災で水深の浅い初期の段階で行えるものとして、簡易な土のうや水のうを置いて浸水を防止する方法があります。
■簡易水のうの作り方
45リットル程度のゴミ袋を二重にし、中に半分程度水を入れます。(持ち運べる重さにする)
■簡易水のうの利用方法
土のうなどを用いて、家への浸水を防止しましょう。
隙間なく並べて浸水を防く。
段ボール箱に入れると持ち運びにも便利。

※水のうは、二段重ねができないので10cm程度の水深が限界です